

カシュカイ語の基礎語彙

栗林 裕

(岡山大学)

kuri@okayama-u.ac.jp

1. 序

カシュカイ語はイラン・イスラム共和国南部のファルス州を中心に分布するトルコ系民族の言語である。カシュカイ語の話者は共和国南部のシーラーズを中心に、約 50 万人が居住し、イランのチュルク系言語ではアゼルバイジャン語（アゼリ語）に次ぐ話者数を持つ (Johanson & Csató 1998)。カシュカイ語はチュルク諸語南西グループに所属し、アゼルバイジャン語、トルコ語、ガガウズ語、トルクメン語と系統的に近い関係にある。イランのトルコ系言語であるアゼルバイジャン語もペルシア語からの音韻的、語彙的、文法的影響を受けているのに対し、カシュカイ語はペルシア語からさらに著しい影響を受けている。また、アゼルバイジャン語とは異なり定まった正書法は持たない。また、宗教的にはほとんどがシーア派のイスラム教徒である。カシュカイ族はもともと遊牧民族であり、現在でも昔ながらの放牧地で移動しながら生活を送る人々もいるが、定住化もかなりすすんでいる。

本論ではイラン・イスラム共和国南部のカシュカイ族の中心地シーラーズ出身のカシュカイ族女性（調査当時 22 歳）とカシュカイ族男性（調査当時 51 歳）を母語話者とし、2002 年 8 月にシーラーズ市にて基礎語彙調査を行った。第一インフォーマントの女性はイランのシーラーズ中心地で生まれ育った定住したカシュカイ族の大学生であり、調査当時は大学教育を受けるため首都であるテヘランに居住していた。第一言語はカシュカイ語であり、第二言語のペルシア語は教育の場で使用する。家庭内および家庭外で日常的にカシュカイ語を使用する。第二インフォーマントの男性はイランのシーラーズ近郊の遊牧地で生まれ育ち、少年時代よりシーラーズ市内で定住している。第一言語はカシュカイ語であり、第二言語のペルシア語は必要に応じて職場で使用する。家庭内および家庭外で日常的にカシュカイ語を使用する。紙幅の制限により、第一インフォーマントである女

性の全体の語彙資料のみ末尾に付す。本論ではトルコ語やイラン・アゼルバイジャン語と比較しつつ、調査より得られたカシュカイ語の言語資料の概要を提示することを目的とする。本論の構成は以下のようになっている。2章では得られた言語資料より暫定的なカシュカイ語の音素体系を提示した後、アゼルバイジャン語の音声的特徴との対照を行う。3章ではカシュカイ族の女性の語彙について、カシュカイ語にのみみられる特徴とアゼルバイジャン語にもみられる共通の特徴について指摘する。さらにカシュカイ族の男性の語彙について、カシュカイ族女性と共通する特徴とカシュカイ族男性のみにみられる特徴とアゼルバイジャン語のみにみられる特徴に分けて検討する。4章ではまとめとして、カシュカイ語についての先行研究と今回の調査資料の関連について検討する。

2. カシュカイ語の音の体系

2.1. 母音と子音

Householder(1965)が提案したアゼルバイジャン語の音素体系を改訂することにより本論で用いるカシュカイ語の暫定的な音素体系の表記を示す表を以下に掲げる。なお、ここでは厳密な音素体系の提示を意図するものではなく、調査中に得られた代表的な音声に基づく概略的なものである。

母音

		前舌	後舌
非円唇	低	ä	a
	中	e	
	高	i	ĩ
円唇	中	ö	o
	高	ü	u

*本文中の長母音は母音の上のバーで示した e.g. aa=ä

**アクセントは通常最終音節に来るが、例外の時のみアクセント表示を記した。

***ペルシア語起源のものは(F)を記した。

子音 (Householder(1965)を改訂)

	両唇	唇歯	歯	硬口蓋	軟口蓋	軟口蓋垂
破裂音	p b		t d	k g	q	
破擦音			ts	j		

摩擦音		f v	s z	š ž	kh gh	ɣ
鼻音	m		n			
接近音			r	y		
側面接近音			l			

2.2. アゼルバイジャン語の記述と対応するカシュカイ語の音声的特徴

後述するように、同じイランのチュルク系言語であるアゼルバイジャン語との関係の近さを指摘する研究者も存在する。ここでは調査資料からアゼルバイジャン語の特徴とされる項目に対応する例を抽出することにより、実際にどの程度の類似点と相違点がみられるかを提示する。Dilaçar (1964) は次の項目をアゼルバイジャン語の音声的特徴としてあげている。ただし文字表記の異なりに関する項目や形態素に関するものと考えられる項目は割愛している。語彙例の番号は資料(徳永他(編)1967の一部を筆者が改訂)中の番号を表し、右側には対照のためトルコ語(Tr)の例をあげる。なお、注記がない限り、言語資料は第二インフォーマントであるカシュカイ語男性のものである。この理由は紙幅の制限上、二人のインフォーマントの語彙表をすべて提示できず、末尾の資料提示は若い女性である第一インフォーマントに限ったので、全体資料を提示できなかった男性である第二インフォーマントの資料をできるだけ提示するためである。また、男性の方がペルシア語からのコピーの少ない、より保守的な語彙体系を有している。

母音

1. 開いた e の存在 14.ät
2. 開いた e が独立した音素を成す 14.ät vs. 223. at
3. トルコ語で e,i に対応する音の多くが開いた e に対応する 14.ät et
4. トルコ語で i に対応する音が e に対応する 185. bel,
(カシュカイ語 女性) bil
5. 円唇や非円唇の非対応がみられる 10. dodaq,
(カシュカイ語 女性) dudakh
6. 二重母音の代わりに短母音に対応する 該当なし
7. 短母音の代わりに二重母音に対応する 94. seysen seksen
8. 単語内の母音調和がほぼ保存されている 48. alma elma
9. 起源的な長母音ではなく派生的な長母音がある 25. gūš kuš

子音

1. 語頭の y の脱落 65. ildiz yildiz
2. 語頭の y の添加 175. yöl- öl-
3. b が m に対応すること 114. män ben
4. kh 音の保持 69. akhšam akšam
5. 語中にみられる子音の連続化 83. yeddi yedi
6. 語頭や語中で p,t,k > b,d,g あるいは b,d,g > p,t,k に交替 55. daš taš
7. 語頭で狭母音の前で t が歯擦音化する 該当なし
8. ロシア語の影響で ts の使用 該当なし
9. 母音間の k が v に変化する 該当なし
10. 語末の k が y や v になる 62. göy gök
11. 語中の ğç が hç になる 該当なし
12. 語末の ğ の実現 53 dakh dā
13. さまざまな音位転換の存在 56. torpak toprak
14. 多くの同化や異化の存在 80. döt dört

このように、多くのアゼルバイジャン語の音声特徴はカシュカイ語の音声特徴と重なる部分がある。上記の「該当なし」の例も調査語彙を広げることにより、該当する例をみつけることができる可能性は否定できない。

3. 基礎語彙の音声的特徴

3.1. カシュカイ族女性（22 歳）の語彙

3.1.1. アゼルバイジャン語(Az)との比較において特徴的なこと

カシュカイ語のみにみられる特徴

- (ア) 語中の r 音はほとんどの場合、震え音である。4. borun, 87. yirmi, 101. arbat など。語末の r 音も震え音になる場合もある。77. bir など。ペルシア語の r 音の影響によるものと考えられる。
- (イ) 語中の -pr- の音連続は -rp- 音位転換を起こす場合がある。44. yarpak, (Az) yaprakh, 56. torpak, (Az) toprak
- (ウ) 語頭の y-音の脱落に至らないものの弱化がみられる。96. yüz, (Az) yüz
- (エ) 語中に生じる -ld- の連続は同化により -ll- となる。166. öller, (Az) öldür
- (オ) t で終わる単音節の音節末子音が歯茎破擦音になる。14. äts, (Az) et

43. ots, (Az) ot

アゼルバイジャン語にも共通してみられる特徴

- (カ) 語頭、語末や語中の無声軟口蓋閉鎖音は摩擦音化する。105. ghiz, kiz
164. okh-, oku- 75. vakht, vakit 178. čikh-, čik-
- (キ) 語頭の唇音が鼻音化する。97. min, bin 114. män, ben
- (ク) トルコ語では音韻変化してしまった軟口蓋音を保持している。20. yakh,
yā (正書法 yağ), 137. sakh, sā
- (ケ) 語頭の y-音の脱落が時折みられる。65. ildiz, yıldiz 66. il, yıl
- (コ) 語頭の無声閉鎖音が有声化する。25. guš, kuš 55. daš, taš
- (サ) 単音節中の r 音が脱落し代償延長が生じる。80. dööt, dört
- (シ) 指示詞の体系には中称を示すものがなく、近称か非近称の二系列である。
- (ス) ペルシア語起源の語がみられるが、イラン・アゼルバイジャン語よりもペルシア語との接触が著しいためペルシア語との二言語併用を行う場合が多い。

3.2. カシュカイ族男性 (51 歳) の語彙

3.2.1. カシュカイ語 (女性 22 歳) との比較において特徴的なこと

3-1-1 で、アゼルバイジャン語との比較でカシュカイ語のみにみられるものとした特徴のうち次の二点はカシュカイ語 (男性 51 歳) には認められなかった。

- (ア) 語中の r 音はほとんどの場合、震え音である。4. borun, 87. yirmi, 101. arbat など。語末の r 音も震え音になる場合もある。77. bir など。ペルシア語の r 音の影響によるものと考えられる。
- (オ) t で終わる単音節の音節末子音が歯茎破擦音になる。14. äts, (Az) et
43. ots, (Az) ot

つまり、男性の語彙では(ア)の震えは特徴的ではなく、(オ)の音節末子音は 14. ät のように閉鎖音になる。一方で、次の三点の特徴は、男性と女性のカシュカイ語に共通する特徴と認められる。

- (イ) 語中の -pr- の音連続は -rp- 音位転換を起こす場合がある。44. yarpak,
(Az) yaprakh, 56. torpak, (Az) toprak

音位転換自体はアゼルバイジャン語によくみられるとされるが(cf. Caferoğlu & Doerfer 1959:297)、上記の例はタブリーズのアゼルバイジャン語ではみられなかった。

- (ウ) 語頭の y-音の脱落に至らないものの弱化がみられる。96. yüz, (Az) yüz
(エ) 語中に生じる -ld- の連続は同化により -ll- となる。166. öller, (Az) öldür
(cf. Caferoğlu & Doerfer 1959:298)

アゼルバイジャン語にも共通してみられる特徴
カシュカイ語 (22 歳女性) の場合とほぼ同じである。

3.3. アゼルバイジャン語に特徴的な点

カシュカイ語とアゼルバイジャン語を比較して、アゼルバイジャン語に特徴的な点は次のようなものになる(例文は栗林(2006)より引用)。いずれも、今回のカシュカイ語の資料の中にはみられなかった。

- (イ) 語末の r 音は時々無声化する。22. sigar, 77. bir, 187. var など。現代トルコ語では女性の発音によく観察されるが、アゼルバイジャン語で女性に特有なものかどうかは不明である。
(ウ) 後続母音が前舌音のとき軟口蓋音の調音点が硬口蓋に移動し破擦音化する。
45. jül, (Tr) gül 67. jün, (Tr) gün 167. jîn-, (Tr) giyin- 118. čim, (Tr) kim

4. カシュカイ語に関わる先行研究と調査資料の関連

カシュカイ語の音素体系についての体系的な研究は今までなされていないし、また研究者の間での共通理解もまだないといえる。この理由は言語自体の記述が十分になされていないことによる。ここでは、いくつかの入手できる範囲での研究者による記述の概観をする。

Dilaçar (1964)はカシュカイ語を話す人々の歴史的な移動のエピソードを交え、Karl Menges の説であると断りながら次のような見解を示している。

通常、カシュカイ語はイラン・アゼルバイジャン語と結び付けられてきたが、逆にトルコ共和国のトルコ語に近いという説が K. Menges から提

案された。歴史的にカシュカイ民族はモンゴル侵攻の時代に、北方のチュルク語グループから分かれて、ホラサーンやテヘランを通過してファルス地方にやってきた。この方言の大きな特徴はトルクメン語にもみられるように長母音を保持している点である。

しかし、Caferoğlu & Doerfer (1959)にはカシュカイ語およびアイナル方言（カシュカイ語の下位方言）の長母音の問題はまだ明確ではないとの記述がある。次に本調査と共通する語彙に限って、Dilaçar が示している例と今回の調査語彙を対照させつつ示す。

カシュカイ語（括弧内はトルコ語、語彙番号の次は50歳男性の調査語彙、下線は未調査であることを示す）

yīl (yīl) 年,	āy (ay) 月,	dīš (diš) 齒,	čūkh (čok) たくさん
66.il	64. ay	5. diš	201. čokh

アイナル方言（カシュカイ語の下位方言）

bāš (baš) 頭,	āt (at) 馬,	čōkh (čok) たくさん,	vār (var) 存在する
15. baš	223. at	201. čokh	187. var

また Menges によると長母音は it 「犬」と var 「存在」の2語のみ残存していると述べているが(cf. Caferoğlu & Doerfer 1959)、今回の資料からは長母音はもはや用いられていないことがわかった。(36. it) (187. var) これらの資料からわかるように、長母音を持つとの特徴は現代のカシュカイ語ではすでに失ってしまっているようである。この他に、さまざまな母音や子音の特徴がみられると述べ、次のような例をあげている。

カシュカイ語

sowkh (sowuk) 寒い,	gušlar (kušlar) 鳥たち,	yūkh(yok) ない,	bākh(bak) 見る
198. sōk	25. gūš	188. yokh	144. gōr-

hana (nereye) どこへ, horda (nerede) どこで
134. hare

語末閉鎖音の摩擦音化や無声閉鎖子音の有声化などの子音の特徴は概ね変わらないといえる。しかし、これらはカシュカイ語に特有のものではなく、イラン・アゼルバイジャン語にもみられるものである。

アイナル方言

öv (ev) 家, döveye (deveye) 駱駝に, urda (orada) あそこに, sawakh (sowuk) 寒い,
37. äv, 60. deya 133. ^worda 198. sōk

örkek (erkek) 男, koşuk (kaşık) スプーン, görde (gördü) 見た,
111. erkek 135. ghaşık 144. gör-

duldur- (doldur) 詰める, sōre (sonra) 後で

—————

また、トルクメン語の影響で **b**-に変化した例として次のものをあげている。

bēr (ver) 与える

183. ver-

以上の例より、典型的なトルクメン語の影響とされた音韻変化はみられない。

オスマン-トルコ語とアゼルバイジャン語とアイナル方言の比較の例として次をあげる。

geč-	keč-	geš-	過ぎる	—————
gömlek	köynek	koynek	シャツ	215. köynek
tuz	duz	dūz	塩	18. dūz
piš-	biš-	biš-	調理された	165. bišir- < biš-

Soper(1996)はカシュカイ語の音素体系はとても複雑であると述べているが、その理由として以下のような点をあげている。

- (i) たくさんの種類の（自由）変異音がみられる。
- (ii) 音韻論的に中間的な母音がみられる。
- (iii) 軟口蓋音に後続する原音素 **I** は音響的には **o** に類似する。しかし、そうするとチュルク語一般にみられる語頭以外に生じる **o** の分布に関する制約に反することになる。

- (iv) 母音 *i* が音素として消失し、これがカシュカイ語の音韻体系を複雑にする最大の原因になっている。

ここで注意したいのは(iii)に関する問題で、Soper は *yagoš* 「雨」について軟口蓋音に後続する *o* を例にあげているが、今回の調査では男性話者も女性話者も双方が 61. *yaghış* の形であり、音声的にも非円唇母音であった。また Soper は *oghol* 「息子」の例をあげているが、これも今回の調査では、104. *oghul* の形であり、円唇中母音ではなかった。したがって、現在ではチュルク語の一般的制約にカシュカイ語の音素配列が反する点はないといえる。また(iv)に関してであるが、最小対語を見つけることはできなかったが、65. *ıldız* 星(*yıldız*)と 66. *il* 年(*yıl*)のように語頭に出現する二つの母音は対立しているようにみえるが、さらに検討する必要がある。

以上をまとめると、Dilaçar 他が論じたような長母音化や語頭の *b*-音などの典型的なトルクメン語の音韻特徴はみられない。アゼルバイジャン語との共通的な特徴は保持しつつ、アゼルバイジャン語にはみられないカシュカイ語特有の語彙や音韻的特徴がみられる。また、Soper(1996)が論じたようなカシュカイ語に特有にみられるとされる音韻的特徴も認められないことがわかった。従来指摘されていない近年における音韻上の変化として、*r* 音の特徴にみられるようにペルシア語とのいっそう緊密な言語接触の結果、ペルシア語的な音韻特徴も保持するにいたった。1960年代および1970年代に議論されたカシュカイ語の音韻的特徴とされたものから重要な点で変化がみられる。

謝辞

査読者より誤りの指摘や有益な助言をいただき、改訂の段階で反映させることが出来ました。お礼を申し上げます。

参考文献

- Caferoğlu, A. and Doerfer, G. (1959). Das Aserbeidschanische. In: Deny, J. et al. (eds.) *Philologiae Turcicae Fundamenta*, 280-307. Wiesbaden: Franz Steiner.
- Dilaçar, A. (1964) *Türk Diline Genel Bir Bakış*. Ankara: Türk Dil Kurumu yayımları.
- Householder, F. W. (1965) *Basic Course in Azerbaijani*. Indiana University Publication.

- 栗林裕 (2006) 『アゼルバイジャン語における言語接触による構造変化についての総合的研究』(課題番号:15520256)平成 15 年度～平成 17 年度
科学研究費補助金 (基盤研究(C))研究成果報告書.岡山大学文学部.
- Soper, J. (1996) *Loan Syntax in Turkic and Iranian*. *Eurologia*.
- 徳永康元 他 (編) (1967) 『アジア・アフリカ言語調査票上』東京外国語大
学アジア・アフリカ言語文化研究所.

Kashkay Basic Vocabularies

Yuu KURIBAYASHI

Okayama University

Kashkay (Qašqā'ī) is the name of a tribal union who lives in the province of Fars in the Islamic Republic of Iran. The Kashkay speaks South Western Turkic. In order to provide the recent developments or linguistic changes of the lexicon, a series of basic vocabularies of a Kashkay variety spoken in Shiraz are investigated based on my own field research.

資料 カシュカイ族女性（22歳）の語彙 （トルコ語との対照）

	カシュカイ語	トルコ語
1 耳	qalak	kulak
2 髪	tük ^j	saç
3 目	göz~gös	göz
4 鼻	bórun	burun
5 歯	diš	diš
6 手	äl	avuç
7 指	bormaq	parmaklar
8 足	geç~ qeç	ayak
9 皮	dāri	deri
10 口	dodaq	aız
11 毛	tük ^j	tüy
12 血	qān	kan
13 骨	simik ^j	kemik
14 肉	äts	et
15 頭	bēš	baş
16 病氣	yōrelmiš	hasta
17 薬	dārman (F)	ilaç
18 塩	dūz	tuz
19 顎	čange	çene
20 油	yakh	yā
21 酒	mašrap (F)	içki
22 タバコ	sigar	tütün
23 食べ物	yimēle	yemek
24 卵	yumurta	yumurta
25 鳥	gūš	kuš
26 カラス	gharga	karga
27 刀	qiliç	kılıç
28 ナイフ	bičā	buçak
29 糸	ip	iplik
30 着物	rakht	giyim

3 1	紙	kagaz	kitap
3 2	ワンピース	rakht, don	elbise
3 3	物	zot	bir şey
3 4	虫	farbiji	böjek
3 5	魚	bālīq	balık
3 6	犬	it, köpek	köpek
3 7	家	ev	ev
3 8	建物	ev	bina
3 9	金	taro (F)	altın
4 0	国民	hālk	halk
4 1	お金	pül	para
4 2	木	aghaj~aghač	tahta
4 3	草	ots	ot
4 4	葉	yarpak	yaprak
4 5	花	čiček	çiçek
4 6	果物	mīve	meyva
4 7	こけもも	?	liken
4 8	リンゴ	almá	elma
4 9	種	don	tohun
5 0	穀物	dāna	būday
5 1	道	yöl	yol
5 2	川	čay	dere
5 3	山	dakh	daa
5 4	水	su	su
5 5	石	daš	taš
5 6	土	torpak	toprak
5 7	火	ots	ateš
5 8	風	yel	rüzgyar
5 9	雲	bülüt	bülüt
6 0	ラクダ	dāvā	deve
6 1	雨	yaghiš	yāmur
6 2	天	göy	gök
6 3	日	günes	aydınlik
6 4	月	ay	ay
6 5	星	ıldız	yıldız

6 6	年	il	yıl
6 7	日	günes	gün
6 8	朝	sähär	sabah
6 9	夕方	päsil	akşam
7 0	夜	geçe~geje	geje
7 1	昨日	düney	dün
7 2	明日	sähär	yarın
7 3	今日	büen	bu gün
7 4	今	iñdi	şimdi
7 5	時	vakht (F)	zaman, vakit
7 6	いつ	haçan	ne zaman
7 7	1	bir	bir
7 8	2	'ikki'	iki
7 9	3	üç	üç
8 0	4	dööt	dört
8 1	5	beş	beş
8 2	6	altı	altı
8 3	7	yeddi	yedi
8 4	8	sekkiz	sekiz
8 5	9	dokkuz	dokuz
8 6	1 0	on	on
8 7	2 0	yirmi	yirmi
8 8	2 1	yirmi bir	yirmi bir
8 9	3 0	ottuz	otuz
9 0	4 0	qırkh	kırk
9 1	5 0	älli	elli
9 2	6 0	altmış	altmış
9 3	7 0	yetmiş	yetmiş
9 4	8 0	seysen	seksen
9 5	9 0	dokhsan	doksan
9 6	1 0 0	yüz	yüz
9 7	1 0 0 0	mən	bin
9 8	1 0 0 0 0	on mən	on bin
9 9	年齢	yaş	yaş
1 0 0	夫	äl	koja

1 0 1	妻	arbat	karī
1 0 2	父	baba	baba
1 0 3	母	ana	anne
1 0 4	息子	oghul, oghlan, uşak (幼児)	oul, uşak (幼児)
1 0 5	娘	ghīz	kīz
1 0 6	兄	qaqa	ābey
1 0 7	姉	böyük ghīz	abla
1 0 8	弟	?	küçük kardeş
1 0 9	妹	küçük ghīz	küçük kīz kardeş
1 1 0	友人	yollaş	arkadaş
1 1 1	男	kişi	erkek
1 1 2	女	ākhtiyor	bayan
1 1 3	人	—	insan
1 1 4	私	mān	ben
1 1 5	あなた	sān	siz
1 1 6	彼	^w o	o
1 1 7	彼女	^w o	o
1 1 8	誰	kim	kim
1 1 9	文字	nāme (F)	yazı
1 2 0	名前	ad	ad
1 2 1	声	sas	ses
1 2 2	音	sas	ses
1 2 3	言葉	dil	dil
1 2 4	心	yürek	yürek, kalp, can
1 2 5	これ	bu	bu
1 2 6	それ	^w o	şu
1 2 7	あそこ	^w o	o
1 2 8	どれ	hānesi	hangisi
1 2 9	何	nāmenā	ne
1 3 0	なぜ	niye	niye
1 3 1	ここに	borda	burada
1 3 2	そこに	^w orda	orada
1 3 3	あそこに	^w orda	orada
1 3 4	どこ	hare	nere
1 3 5	スプーン	kāşik	kaşık

1 3 6	左	čak (F)	sol
1 3 7	右	sakh	sā
1 3 8	南	aldī	güney
1 3 9	北	ilale	kuzey
1 4 0	中	orda	orta
1 4 1	外	dīšar	dīšar
1 4 2	上	akhāre	yukarī
1 4 3	下	ašāge	ašā
1 4 4	見る	gör-	bak-, gör-
1 4 5	開く	esit-	duy-
1 4 6	言う	daniš-	söyle-
1 4 7	歌う	okh-	šarkī söyle-
1 4 8	話す	dāniš-	onuš-
1 4 9	笑う	gül-	gül-
1 5 0	泣く	aghla-	āla-
1 5 1	怒る	narahat ol-	kīz-
1 5 2	驚く	tājüp et- (F)	šašir-
1 5 3	打つ	vur-	vur-
1 5 4	押す	bəs-	bas-
1 5 5	掴む	tut-	tut-
1 5 6	走る	kač-	koš-
1 5 7	止まる	tur-	dur-
1 5 8	座る	oter-	otur-
1 5 9	寝る	yat-	yat-, uyu-
1 6 0	食べる	yi-	ye-
1 6 1	飲む	ič-	ič-
1 6 2	飛ぶ	uč-	uč-
1 6 3	切る	k'es-	kes-
1 6 4	読む	okh-	oku-
1 6 5	焼く	bišir-	yak-
1 6 6	殺す	öllür-	öldür-
1 6 7	着る	gey-	giyin-
1 6 8	する	iš gör-	yap-
1 6 9	開く	ač-	ač-
1 7 0	閉める	bāla-	kapa-

1 7 1	住む	otur-	otur-
1 7 2	数える	say-	say-
1 7 3	生む	dō-~dogh-	dowur-
1 7 4	生まれる	?	dō-
1 7 5	死ぬ	yöl-	öl-
1 7 6	会う	göriř-	görüř-
1 7 7	置く	qo-	koy-
1 7 8	出る	čikh-	čik-
1 7 9	入る	gel-	gir-
1 8 0	来る	gel-	gel-
1 8 1	行く	git-	git-
1 8 2	動く	gez-	hareket et-
1 8 3	与える	ver-	ver-
1 8 4	考える	fekir et- (F)	düşün-
1 8 5	知る	bel-	bil-
1 8 6	できる	başar-	yapabil-
1 8 7	ある	var-	var-
1 8 8	ない	yokh	yok
1 8 9	大きい	böyik	büyük
1 9 0	小さい	küçük	küçük
1 9 1	力の強い	oçak (F)	kuvvetli
1 9 2	弱い	orhanç (F)	kuvvetsiz
1 9 3	長い	uzun	uzun
1 9 4	短い	kīta (F)	kīsa
1 9 5	遠い	irak	uzak
1 9 6	近い	yakhīn	yakīn
1 9 7	熱い	essi~ sījak	sījak
1 9 8	寒い	sōk	sowuk
1 9 9	新しい	tāze (F)	yeni
2 0 0	古い	kōne (F)	eski
2 0 1	多い	çokh	çok
2 0 2	少ない	āz	az
2 0 3	白い	ákh	beyaz
2 0 4	黒い	kara	kara
2 0 5	赤い	kīrmīzi	kīrmiz

2 0 6	色	ren (F)	renk
2 0 7	良い	yakhč	iyi
2 0 8	悪い	pis	kötü
2 0 9	厚い	nāzik (F), koroft (F)	kalın
2 1 0	同じ	birbirayin	aynı
2 1 1	はい	haye	evet
2 1 2	いいえ	yō	yok, hayır
2 1 3	去勢馬	ats	at
2 1 4	小麦粉	kokay?	un
2 1 5	シャツ	köçnek, kökhinek	gömlek
2 1 6	体	bādan	beden
2 1 7	マットレス	rakhthat (F)	yatak
2 1 8	援助	kömee git-	yardım
2 1 9	全部	bāle	hepsi
2 2 0	いくつ	na gazde	kaç tane
2 2 1	山羊	géči	keçi
2 2 2	牛	segher	inek
2 2 3	馬	ats	at